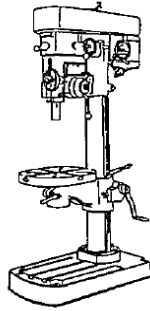
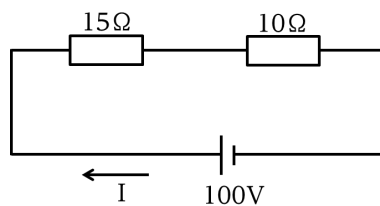


- 1 旋盤とは、工作物を主軸に取り付け、工作物を回転させながら加工を行う工作機械である。
- 2 下図に示す工作機械は、フライス盤である。



- 3 下図に示す回路に流れる電流 $I$ は、 $0.25\text{A}$ である。



- 4 消費電力 $100\text{W}$ の電熱器を1時間使用したときの電力量は、 $360\text{kJ}$ である。
- 5 事後保全は、計画的に設備を停止して、分解・点検・整備をする保全方式である。
- 6 予防保全には、劣化を防ぐ活動、劣化を測定する活動、劣化を回復する活動の3つがある。
- 7 故障メカニズムとは、断線、折損など故障にいたる過程のことである。
- 8 設備履歴簿には、設備の故障の内容や、修理に要した費用などの記録を残す。
- 9 パレート図は、設備故障の低減活動の優先付けをするときなどに用いられる。
- 10 特性要因図とは、特性(結果)に対して、その要因を体系付けられるように図で表現したものである。
- 11 S20Cの炭素含有量は、約 $0.2\%$ である。
- 12 金属の熱処理は、加熱温度や冷却速度などを調節することにより、性質を改良する加工方法である。
- 13 労働災害とは、火災や地震など、設備の損傷原因となる災害のことである。

- 14 5Sにおける整頓とは、必要なものを必要なときにすぐに使用できるように、決められた場所に準備しておくことである。
- 15 ボール盤作業では、必ず手袋を装着する。

- 16 ねじのピッチとは、ねじを1回転させたときに、ねじが軸方向に動く距離のことである。
- 17 かさ歯車は、2つの歯車の軸が平行な歯車である。
- 18 測定範囲が0～25 mmの外側マイクロメータを保管するときは、アンビルとスピンドルの間にすき間を空けておく。
- 19 グランドパッキンは適量の漏れ状態を保ち使用する。
- 20 グリースは、ちょう度番号が大きいほど硬い。
- 21 ダイスは、おねじの加工に用いる切削工具である。
- 22 非破壊検査は、検査部位を切断して観察した後、溶接などにより元の状態に復旧する検査方法である。
- 23 一般的に、空気圧の応答性は、油圧に比べて劣る。
- 24 作動油は、石油系作動油、合成系作動油などに分類される。
- 25 作動油が白濁する原因として、水分の混入が考えられる。
- 26 プラスチックとは、石油や天然ガスなどから作られる合成樹脂のことである。
- 27 ショットピーニングとは、金属の表面に球形に近い硬質粒子を高速度で打ち当てることによって、表面を加工硬化させる加工法である。
- 28 物体の運動エネルギーは、速度が2倍になると2倍になる。
- 29 ばねが伸び縮みする長さは、弾性力の大きさに比例する。
- 30 下図に示す図面において、Aを寸法補助線という。

